

議事録

件名	泉大津市図書館整備検討委員会		第4回
日時	平成31年3月28日(木曜日) 開始14:00～ 終了15:10		
場所	市役所2階202会議室		
出席者 (敬称略)	委員	委員長	中川 幾郎 帝塚山大学名誉教授
		委員	前田 茂樹 大阪工業大学准教授
		委員	花井 裕一郎 一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所理事長
		委員	木村 有香 泉大津市校長会代表
		委員	源 眞由美 泉大津市園長所長会代表
		委員	三井 保夫 泉大津市立図書館長
		委員	藤原 容子 泉大津市社会教育委員
事務局	泉大津市	丸山教育部長、櫻井教育部理事、鍋谷参事、大塚課長補佐、吉田	
	コンサルタント	ランドブレイン株式会社 株式会社ローカルファースト研究所	山北 (記録) 関
議題	1. 開会 2. 議事 (1) 泉大津市図書館整備基本構想(案)に対するパブリックコメントの結果について(資料1) (2) 泉大津市図書館整備基本構想についての意見交換(資料2) 3. その他 4. 閉会		
<p>1. 開会</p> <p>事務局：(櫻井理事より挨拶)</p> <p>2. 議事</p> <p>委員長：本日は傍聴者なし。</p> <p>(1) 泉大津市図書館整備基本構想(案)に対するパブリックコメントの結果について</p> <p>事務局：議事(1)に入る前に事務局より、図書館移転に係る本市の動きについて説明を行う。本委員会では、図書館の駅前商業施設への移転を前提として検討を進めてきたが、平成31年1月30日の教育委員会議において、教育委員会として図書館の駅前アルザ泉大津4階への移転を決定し、それを受け2月1日の部長会議において、市として、駅前へ移転することを正式に決定した。その後3月議会において、南出市長が平成31年度の施政方針のなかで、平成33年4月に図書館をアルザ泉大津4Fに移転することを発表したことを報告する。</p> <p>次に議事(1) 泉大津市図書館整備基本構想(案)に対するパブリックコメントの結果について説明する。(資料1)</p> <p>中川委員長：パブリックコメントの結果に関して、ご意見、ご質問があれば発言をお願いします。</p> <p>三井委員：No.22の駅前の図書館に小学生だけで行かせる事に不安があるという意見に対し、子どもに対するケアを行うという説明があったが、他市でも建替の際に駅前に移転するケースはある。和泉市でも交通量の多い駅前に図書館を設置しているが、子どもに対するケア</p>			

をしているのか。具体的な対応策があればよいが、安易にケアすると言ってしまってもいいのか。

事務局：周辺の駅前図書館を調べたところ、ケアしているところと、そうでないところ両方ある。例えば、1時間の駐輪無料券を渡すなどの対策をしているところがある。アルザについては、2時間まで無料で停められるので、基本的には2時間で大丈夫かと考えている。

三井委員：駅前の図書館に来るまでが危ないので、ケアをするという意味ではないのか。

事務局：現在の図書館は無料で停められるが、駅前に移転すると3時間居た場合、駐輪料金がかかるため心配だという意見が強かった。そのあたりのケアをしていかないといけないという意味である。

(2) 泉大津市図書館整備基本構想についての意見交換（資料2）

中川委員長：基本構想（案）について、前回の検討委員会で提示した時からの変更点を説明していただき、一括して議論できればと思う。

事務局：内容について大きな変更はなく、言葉尻の変更や団体のヒアリングのなかで町名等が間違っていたところを修正している。

中川委員長：それでは、順次、意見交換をしていければと思う。

前田委員：基本構想案は、今後実施設計のプロポーザルを実施する際に、添付資料として提示するのか。

事務局：そのように考えている。

藤原委員：レイアウトについて、絨毯のコーナーを置くのか。小学校図書室の開放で、12畳ぐらいの絨毯があるだけで、親子連れで来られてのびのびと楽しまれている。せっかく駅前に出来るので、呼び込めるのではと思った。

箱根の方にブックホテルができたと聞いた。書棚の中に一人だけ入れる机と椅子があって、籠れるスペースも面白いと思った。

また、泉大津は毛布の産地なので、毛布で作ったブックカバーなど、地場産業と連携して、自産自読を進める工夫などしてはどうか。

中川委員長：絨毯については、どういった検討をしているか。

事務局：構想の35頁に具体的な導入機能を掲載しており、図書PLACEの児童図書室のなかのお話室の1例として「カーペットや木の床で靴を脱いで寝転ぶことができる」としている。

藤原委員：どの程度の広さを想定しているのか。

事務局：市の案を詳細に決めると、民間からのアイデアが固まってしまうので、細かくは書いていないが、くつろいで本を見て、読み聞かせする場所は必要かと思っている。地場産品については、ブックカバーまではいたっていないが、協働PLACEのなかの歴史展示コーナーに、「毛布を中心とした泉大津市の歴史に触れることができる場所」と記載しており、泉大津の歴史を市外の方に知っていただき、市民にも改めて知っていただく必要があると考えており、重要だと思っている。

三井委員：28頁以降、様々な機能を詰め込んでるが、図書館がどこまで担うのか。財政事情や運営を考えた上で、選択と集中を行い、他の施設に任せる部分など、分野の棲み分けを行った上で進めていただきたいという思いがある。

中川委員長：その議論は、前回以前の本検討委員会において、面積をどのようにして使うかという議論の際に同時に行ったと記憶している。選択と集中ではなく、可能な限り多様に応え、

そのなかで+αとして、泉大津市の産業に応えられるものを特化して加えるという議論だったかと思う。選択と集中はカットする、あきらめるということである。そうではなく、可能な限り、多様に太刀打ちしましょうということ。私の考えとしては基本的に蔵書30万冊がベースとっており、泉大津市はそのベースを達成することができると考えている。蔵書数30万冊を達成できない自治体が多く、例えば10万冊しか確保できない自治体が、地域の中小企業向けの蔵書中心の図書館にしようというのであれば選択と集中であるが、泉大津はそうではない。多様性を尊重しましょうということなので、選択と集中ではないと思う。

三井委員：他の図書館も20万冊前後が多い。医療、法律など専門性のある図書は高い。置いたら見ると思うが、見るのは一部の人であり、費用対効果を考えると難しいところがある。医療も法律も変わっていくので、専門性を追求すれば、どんどん新しい本を買っていく必要があり、図書を選ぶ人も専門性のある人を配置しないといけない。市レベルでどこまで追いかけていくのか、少し疑問に思った。

中川委員長：運用していくなかで専門性は育てていくしかないと思う。この委員会で、泉大津市の毛織産業のために蔵書を揃えますといったところで、当該事業者の方々が喜ばれるかどうか、そこまで期待していないと言われるかもしれない。住民や利用者のニーズを踏まえてから決めるのでも遅くない。ニューヨークの図書館は、ブロードウェイの全作品があり、世界中から見に来る図書館だが、それもブロードウェイが育てたようなものである。図書館は成長するものだと思う。集中と選択にこだわる必要はないと思う。泉大津市の場合は、多様性に太刀打ちできる面積と予算があると考えている。

源委員：先ほど読み聞かせの部屋の話があり、構想のなかにも絵本の会ぽっかぽかさんのことが書いてあったが、そういった団体の方をたくさん呼んでもらえれば、子ども達が行きたいと思う図書館になるのではないかと思った。また、和泉市で、読んだ本が一目でわかる通帳を取り入れており、子どもたちも楽しみにしているということを知ったことがあるので、取り入れたらよいかと思う。

中川委員長：ソフトの話なので取り込むことは可能だと思う。

木村委員：パブリックコメントの結果について、募集方法については、郵送、ファックス、電子メールまた持参とあるが、出された意見に対する市の考え方については、意見を提出された方にどのようにして返したのか。

事務局：ホームページに掲載している。

木村委員：43頁に今後のスケジュールが示されており、平成31年に基本・実施設計、平成32年に整備工事で簡単に記載されているが、どのように進めていくのか。

事務局：現在、設計プロポーザルの準備をしており、設計のなかで細かな仕様を固めていくことになる。設計プロポーザルの資料の1つとして本構想を入れる。設計のプロポーザルに参加していただく方は、この構想を見ながら、設計の考え方を提案していただくことになる。スケジュールでいうと、4月早々に設計プロポーザルが出来るよう準備を進めている。事業者を選定し、6月ごろから設計を始めて、年内の12月には実施設計まで終えて、予算取りを行い、議会の都合もあるが、平成32年6月ぐらいから工事をはじめたいと考えている。工事が平成33年1月ごろまでかかり、2、3月で引越作業を進め、平成33年4月にオープンというスケジュールを目指していきたい。

中川委員長：このH31、H32は、年度か、年次か、示さないのか。

事務局：年度であり、西暦も併記する形としたい。

中川委員長：和暦は変わるので、西暦としてはどうか。

花井委員：事務局が言われたことを予定でもよいのもう少し書き込んでどうか。設計者選定、基本設計、実施設計、工事の発注など流れがあると思うので書いておいてもよいかと思う。

前田委員：35、36頁の施設配置のところだが、ビジネススペースのイメージ写真が場所を占有する事例のものとなっている。市民からは、誰かのものになってしまうのではないかという意見が出そうである。イメージは波及する。どういう形がよいかわからないが、これではないのではないかと思う。ティーンズスペースのイメージも、ティーンズが自主運営しているイメージのものを使ってもらった方がよいのではないかと思う。

ゾーニングイメージも図書スペースが静の部分かと思うが、ここには書かれていないがエスカレーターがあるので、前回の3案を掲載するのがよいかはわからないが、前回行った議論がもったいないと感じる。まだいろいろな可能性があることを示してあげた方がよいのかなと思う。

事務局：わかりにくいのでイメージ写真を掲載したが、省いた方がよいのかなと改めて思っている。

前田委員：これを望まれているのかと付度してしまう。泉大津市として具体的にこういうものが欲しいというものがあれば載せるべきだが、イメージがないのであれば、載せないという選択肢もあるかもしれない。例えば外国のもので、日本にまだ無いようなものであれば、あえて載せることも考えられる。

事務局：3案の議論で様々な意見をいただいたが、それは事務局の内面には持ちつつ、民間からは自由な発想で提案をいただきたいという思いから、PLACEのゾーン分けだけを示しており、ゾーンについては図書PLACEが右上にいてもよいと思っている。

前田委員：別の行政にて設計者側で設計プロポーザルに参加したが、そこで示されていたイメージは、ゾーンの中に配置する機能について、機能同士の相性などを考えて配置案を一例として示してあった。あくまでも一例であるという断りを記載し、設計者の裁量で機能をシャッフルしてより良くしてくださいというものであった。現在の構想では、ゾーンは逸脱してはいけないと捉えられてしまいかねない。静と動をどう組み合わせるか大きな問題である。まだ、いろいろな可能性があるということを設計者選定の時に伝えたいのであれば、もう少し柔軟なイメージを載せて、写真を載せない方がよいかもしれない。

事務局：仕様書にはゾーンは載せないことを考えている。導入機能自体もどこまで載せるか、庁内でも議論しているところである。

前田委員：イメージは消して、ゾーニングについてはゾーンを超えて必要な部屋を隣接させるなどのことは構わない、適切な組み合わせを期待するなど、一言だけでも書いておいた方がよい。

中川委員長：検討委員会での議論の結果として期待される機能をここに掲げているものである。ゾーニングを固定するものではないし、ゾーンの近接関係についても固定するものではないことにご留意くださいと記載してはどうか。記載しているものは最大公約数であって消滅することもあり得る。ビジネスのスペースは、使いこなされるほど、固定化した人が独占する可能性がある。そうするとルールがいる。それが無料でよいのかといった議論も出てくる。オープンPCコーナー等もルール整備は必要であり、それは別途議論する必要がある。

中川委員長：パブコメの意見でも触れられているが、図書館協議会については、図書館法では、図書

館長の諮問機関になっていて、必置機関ではないが、これがないと住民参加の図書館ではないと思っている。図書館協議会、運営委員会、名前はなんでもよいが、設置すべきだと考えている。

もう一つの観点からいうと、図書館は純粋な社会教育機関なので教育施設である。小中学校の校長先生の代表は、必ず協議会に入っていないといけない。幼稚園、認定こども園などの代表も入ってもらうべき。学識経験者が全てカバーできればよいが、そういうわけにもいかない。構成メンバーについては行政でしっかりと検討していただきたい。豊中市であれば、大阪府子ども文庫連絡会が必ず入っている。読み聞かせのボランティアは、ブックスタート事業に関するかけがえのない人的資源である。協力がなければブックスタートなどできないため、市民が作っているボランティア組織に入ってもらうことを条件にするのもよい。他は、子育て期のお母さんの代表がほしい。高齢者の代表を入れるのもよい。勤労階級、働き盛りの忙しい人、社会教育では一番意見を聞けていない。勤労サラリーマンにとって公立図書館は来るなど言われているようなものであり、休館日などについても例えば近隣市とずらすなど、意見をもらうとよい。議論する場として、図書館協議会がいると思う。結果的に新しい図書館を運営するにあたっての図書館長の負担を軽くする。教育委員会への風あたりを弱めることにもなる。

前田委員：公設公営の枠組みのなかで、市民が関わる余白をどう作るか、人が来てくれるきっかけとなることかと思う。そのあたりは、どのように進めていく予定なのか。図書館協議会よりも、もう少しフランクな組織が必要ではないか。例えば、読み聞かせ会があると思うが、それをきっかけに、市民の方が参加する枠を増やすようなことを、何か生涯学習がするのかわ、どこの課が担当するのかわ、公設公営でいってしまうと変わらない。負担が残る。そのあたり、決まっているのであれば、教えていただきたい。できてからではなく、つくる段階から、意見が少しでも反映される仕組みがあるとよいと思った。

事務局：運営については、直営と指定管理のメリット、デメリットを比較するなかで、直営のメリットとして、市民の声を聴くことができると書いている。また、構想のなかにまちぐるみ図書館を掲げており、事務局としては、市民の力を借りて、巻き込み型で進めたいと強く思っている。今も、自治会で本を集め、読書スペースとして自治会館の開放を自らしてもらったり、学校図書室の開放をボランティアで行ってもらったり、家の前に本箱を置くといった市民活動もひろがっている。さらに図書館に来ていただいている高齢者をどう取り込むかも考えていかないといけないと事務局では話し合っている。

前田委員：例えば、掃除をするなど、ハードルをあげないで、できるところから少しずつ任せていく、一緒にやってみて、その部分を市民団体の方に任せていく形がよいと思う。何ができるか、どういうことだったら図書館に自ら関わるイメージがあるか、ワークショップを並行して実施していけるとよいのではないか。

事務局：設計の間、現行図書館は使い続けるので、図書館に足を運んだことがない方に、駅前に図書館が移ってくるとこんな形となるというイメージの共有、入り込むきっかけづくりとなるフォーラムやワークショップを同時並行で実施していきたい。

中川委員長：1つの方法として、図書館協議会を設置して、附属機関として専門部会を設置して、検討してもらおうという方法がある。少なくともまちづくり図書館連絡協議会は必要である。

花井委員：文面だと、ネットワークシステムでつなぐとあり、安価であればすぐにできるが、本格的に実施しようとするとも相当費用がかかる。絶対に取り組んでほしいが、構想に書き込むのであれば、「構築する」と書くよりは、「検討する」の方がよいのではないか。

中川委員長：連絡協議会を開始して、どうすればコストをかけずに動かせるのか検討し、動きが成長すればネットワークでつなぐところまで成熟すると思う。初めからネットワークをつなぐと運用でコストがかかって、こんなはずじゃなかったとなり、財政を圧迫することになる。育てていくという発想で、まずは連絡協議会からスタートしてはどうか。将来的には、図書館協議会の構成メンバーには、これらに関わる人も入ってこないといけない。小さく育てて、大きく成長させることを考えると、小中学校長の代表者、幼稚園、保育園、認定こども園長の代表者、ボランティア組織の代表者、学識経験者ぐらいからスタートすればいけるのではないか。もう一つ、図書館協議会の会長は社会教育委員を兼ねることが望ましい。社会教育委員は、公民館の運営審議会の代表、スポーツ審議会等の代表などであり、市の社会教育のことなどをよく知っているため、図書館協議会の運営がスムーズに動くと思う。

各委員より様々な意見をいただいたが、これをもって基本構想案を一旦承認する形としたい。

各委員：承認とする。

3. その他

中川委員長：最後に、意見などあれば願います。

藤原委員：図鑑しか置いていない小さい図書館の事例を見たことがある。図鑑もカスタムナイフの柄の彫刻や世界の灯台など写真ばかりのものであり、そこへコーヒーを持ち込んで、読書しなくてもリフレッシュして家に帰るといったコメントもあった。疲れていて活字だけの本はしんどいという人もいる。泉大津しかないという特色もつくってあげればよい。それをアピールしていくことが私たちの仕事である。図書館はリッチな気分になれる場でもある。ロコミも大事かなと思った。

中川委員長：泉大津市の新図書館の移転先とされている場所によく似ており、人気があるのが、JR明石駅前の複合ビルの図書館である。泉大津市が狙っている図書館と似ていると思うので、視察にいつてはどうか。

図書館の研究、知識獲得などのレファレンス機能は司書の能力によるところが大きく、司書が非常に大切だということの認識が市民に欠けているので、そうしたことも啓発した方がよい。奈良県の香芝市を舞台に、図書館の司書が主役となった「天使のいる図書館」という映画が撮影されている。司書の力、図書館の力を気づかせてくれる映画である。いろいろな可能性を持った施設なので、大事にみんなで育てていただきたいと思う。

4. 閉会

事務局：（丸山教育部長より挨拶）

以上